2008

デジタル世代に向けた“ふみ文化”の提案

How To REALLY Write REAL Letters: A Guide for the Digital Generation

AD10 北村 美咲
指導教員 氏家 和彦, 李 盛姫

1. 調査と分析

総務省情報通信白書よると、引受郵便等物数は平成 15 年度から 25 年度の 10 年間で一度も増加がなく減少が続いている[1]。それに対し、20 代のソーシャルメディアの利用率が、平成 24 年度から 25 年度の 1 年間で 40%の増加が見られる[2]。

以上のデータにより、手紙を出す人が減少しており、デジタルのコミュケーションツールを使う人が増えていることが分かる。

2. 研究目的と提案物

現代の若者に広く普及しているソーシャルメディア等のコミュニケーションツールは、顔文字や絵文字等を使う。これらは、表情や感情、行動などを視覚化したものである。しかし、従来のコミュニケーションツールである手紙には、これらは存在しない。これは、手書きの文字に、想いを文字にしようとする気持ちが表れるからだと言える。この、文字に想いを込められるということが手紙の良さだと考える。

本研究では、デジタルツールを利用する若者に、「手紙を書くこと」で、文(ふみ)の文化を感じ、手紙に親しむきっかけを作ることを目的とする。この目的を達成するために、基本的な手紙の書き方・就職活動に関する手紙の書き方をまとめたカードのセットを製作した。

3. コンセプトの立案

手紙を書くことに対し、堅苦しさを感じさせず、親しんでもらうために「アナログ感」をコンセプトとし、全体的に柔らかい雰囲気を出すことを目指した。

4. デザイン展開

＜基本のデザイン＞

(1)直線ではなく手書きのような線

(2)ゴシック体、手書きのようなフォント

(3)文字が多いため、うるさい印象にならないよう余白をとる、細いフォント

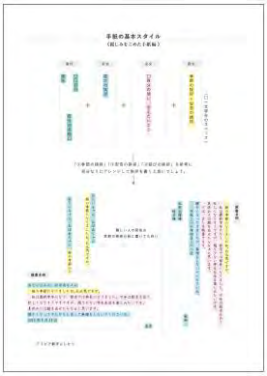
＜パッケージ＞

手紙を連想させるよう、ラベルは便箋をモチーフにデザインし、和紙で製作。堅苦しくならないようイラストを用いた。カードを入れる袋も、手紙をモチーフに角 3 の封筒を使用。文(ふみ)をイメージさせるため、和紙のような風合いの紙を用いた。

＜カード＞

レターセットのように帯でまとめた。内容は手紙の構成を色で分け、視覚的に把握できるようにした。この色はどのカードでも対応する。また、ラベルと同じ理由からイラストを用いた。紙は少し黄みの入った白を選んだ。

5. 完成図



6. 結論

本校デザイン学科の 4 年生 33 人に、プロトタイプのセットを見て、就職活動で使う送付状を書いてもらう検証を行った。結果、2/3 の学生は書き方を見ながら自分で内容をアレンジし正しく書くことができた。「わかりやすい」「見やすい」「欲しい」といった感想が多く寄せられ、このセットによって「手紙に親しみやすさ」を感じてもらえたと言え、研究目的は達成できた。

残りの 1/3 の学生については挨拶の誤った使い方が多く見られた。この問題は、デザインの改善で解消されると考え、最終提案物ではデザインの修正を行った。また、「文字がきたないからなぞって書くテンプレートが欲しい」という意見から、なぞって書くための見本と、便箋と封筒をセットに加えた。

文 献

[1] 総務省 情報通信白“郵便・信書便事業”
(平成 20 年版)http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h20/pdf/k2050000.pdf
(平成26年版)http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h26/pdf/n5a00000.pdf

[2] 総務省 情報通信白“ICT の進化によるライフスタイル・ワークスタイルの変化”
(平成 26 年度版)http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h26/pdf/n4100000.pdf

・ 現代礼法研究所主宰岩下宣子[監修],Gakken,“礼儀正しい手紙・はがきの書き方とマナー”

・ 日本分芸社,“好感を持たれる 手紙の書き方とマナー”